

日本文化论丛

日本文化論叢

【第四届中日韩文化教育研究国际研讨会论文汇编】

顾 问 陈 岩

主 编 刘利国

副主编 宫 伟



大连理工大学出版社

日本文化论丛

日本文化論叢

【第四届中日韩文化教育研究国际研讨会论文汇编】

顾问 陈 岩

主 编 刘利国

副主编 宫 伟



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文化论丛:第四届中日韩文化教育研究国际研讨会论文汇编 / 刘利国主编. — 大连:大连理工大学出版社, 2007. 9

ISBN 978-7-5611-3758-1

I. 日… II. 刘… III. 文化—日本—国际学术会议—文集 IV. G131.3-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 139571 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@ dulp. cn URL: <http://www. dulp. cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm × 203mm	印张:24.5	字数:610 千字
2007 年 9 月第 1 版	2007 年 9 月第 1 次印刷	

责任编辑:王佳玉 宋锦绣	责任校对:张 凡
封面设计:孙宝福	

ISBN 978-7-5611-3758-1

定 价:50.00 元

序

陈 岩

由大连外国语学院主办的第四届中日韩文化教育国际研讨会（2006.9.1～9.17）是东亚日语教育、日本文化研究的盛会。出席会议的正式代表220余人，分5个学科，进行了20场发表；其间有13人做了特别讲演，基调讲演；还举办了11场面向学生的公开讲座，听者达2000余人。此次研讨会参加人数多，主题明确，内容丰富，形式多样，影响较大，颇受国内外日语教育界瞩目。

这次研讨会最重要的特点是它的针对性。长期以来，我国的日语教育一直以听、说、读、写四项基本技能为主要目标，教学内容也基本局限于发音、语法、词汇等几方面。这种以培养语言能力为主要目的的做法显然已经不能适应时代的需要。从上世纪90年代初，我国的日语教育者、研究者对这一问题已经有所认识，并发表了一些研究文章。但从整体上看，在理论研究方面还不够系统、深入，而在实践做法上则存在着盲目性、随意性。针对我国日语教育这一需要迫切解决的重大课题，研讨会把“全球化社会的日语教育”作为主题，即解决新时代日语教育“为什么教，教什么，怎样教”的问题。

这次研讨会的另一个特点是它的应用性。进入21世纪后，经济全球化的形势要求日语教育必须把培养语言运用能

力、跨文化交际能力作为重要目标，为了实现这个目标，日语教育者、研究者必须对有关问题在理论上、实践上做出解释与应对。于是，“培养语言运用能力、跨文化交际能力”成了此次研讨会的主要内容。近年来，我国的日语教育迅猛发展。以高等学校日语专业为例，2003年有日语专业的高校为250所，到2007年，竟然翻了一倍，增加到了500所。这种发展，无疑是社会主义市场经济、社会需求使然。近年来，大连市每年都有数以千计的日语专业大学生毕业，他们都可以顺利地找到工作。现在，我国高等学校日语专业以商务日语、IT日语等日语加专业倾向为多，这是顺应社会、经济形式之举。随着中日关系的好转，经济交流的扩大，日语教育的发展势头将在数年内持续，“培养用日语进行商务活动能力”将成为日语教育的重要内容。这次研讨会在这方面开了一个好头，希望日语教育者、研究者能把这一新课题的研究深入下去。

这次研讨会的第三个特点是它的实践性。提交给本次研讨会的论文绝大部分出自作者教学实践。这是十分可喜的现象。这种从实践中抽象、总结出的认识、观点真实可信，有的放矢，无论对自己还是对他人都是有用的。对日语教育者来说，应用研究、教学法研究永远都是重要的课题。应该克服研究中重理论、轻实践，重宏观、轻微观的想法，扎扎实实做好这种关系教学质量、效果的研究。

随着日语教育事业的发展，研讨会也在增加。近年来，每年都有数个国际研讨会召开，我在希望继续保持这种活跃局面的同时，也希望研讨会的主题更集中，研讨更深入，参加者更广泛，以推动我国日语教育水平的不断提高。

2007年7月7日 夏日

目 次

特別講演

グローバル化進展とこれからの日本語教育…………… 水谷修 (1)

パネル・ディスカッション

社会ニーズと日本語教育…………… 劉利国 宿久高 于濤
 斉藤俊樹 崔光準 黒田篤 馬慶明 修剛 加藤清方 (20)

グローバル化社会における日本教育のあり方

中国の大学における日本語教育の諸問題…………… 王健宜 (48)
 論理的表現力を養成するタスク・シラバスによる
 コンテント・ベース教育…………… 山本富美子 (60)
 「2+2」留学生の日本事情教育について考える
 ……………… 笠原祥士郎 (75)
 異文化間教育から見る「学部生の中日共同育成」について
 ……………… 海村惟一 (90)
 ネットワーク環境を利用した日本語教育の可能性について
 ……………… 橋本恵子 (101)

日语专业教育的发展趋势与问题·····	陈俊英 (111)
中日両国人名のグローバル化への展望·····	鮑顯陽 (120)
论本科生毕业论文工作的改革·····	徐 滔 (132)
日语泛读课的目标设立及课堂指导 ·····	徐 琼 (142)
新形势下大学日语教学的改革与探索 ·····	周桂香 王健 李筱平 (152)
高级日语课程建设刍议 ·····	王健宜 刘肖云 (163)
中国人日本語学習者の聴解ストラテジーについて ·····	韓蘭靈 劉玉琴 (176)
日语学习者语料库与日语教学·····	徐 莲 (190)
学習者の現状から考える日本語教授法 ·····	李 燕 (204)
コミュニケーション能力の育成を重視した日本語教授法 ·····	王 妮 (215)
大連における新しい日本語教育のあり方について ·····	張思瑤 (229)
文章表現クラスにおける学習目標設定活動···	吉田美登利 (246)

言語運用能力、コミュニケーション能力の養成

日中商务沟通研究动向与课题·····	卢 涛 (256)
关于 BJT 商务日语考试的创新思考 ·····	石若一 石田哲也 石田博明 張晨曦 (266)
広告文における表現に対する学習者の理解についての実践報告 ·····	井上幸 (277)
授業における異文化の導入·····	張 鑫 (292)
日本語理解を深めるための日本言語文化の導入···	李 晨 (303)

用教育技术手段精选日本語汉字词汇测试题目

- 张延凯 关岫玲 (314)
- ビジネス日本語に対する認識の一考察..... 黎晓妮 (324)
- 日本人の受身的発想..... 朱麗穎 劉 峰 (335)
- 商贸日语课程教学方案的设计..... 王艳迎 (343)
- ビジネス日本語教育の緊迫性 楊立国 (350)

日本語学研究

- 一般言語学研究と個別言語研究の関係..... 于日平 (362)
- 漢字を媒介にする近代中日間の語彙交渉..... 劉凡夫 (376)
- 沖縄における文化教育..... 安達義弘 (388)
- トーク番組における一人称の使用状況..... 横田隆志 (402)
- 構文上から形式名詞「はず」の一考察..... 樊慧穎 (411)
- 日本吳音系における江摂の主母音について..... 全昌煥 (424)
- 明治後期における自称詞の使用状況をめぐって
..... 趙宏 祁福鼎 (439)
- 中韓国語における空間関係づけのメタファーの比較
..... 李森 劉吉文 (451)
- 「笑いのネタ」について 劉 俊 (466)
- 「状態変化主体の他動詞文」の意味的動機付けへの認知的研究
..... 梁宝衛 付紅紅 (481)
- 翻訳におけるコンテクストの働きについて..... 韓雲冬 (492)
- 中国人留学生のカルチャーショックに関する一考察
..... 李晓燕 (503)
- 中日英語における受動態の対照分析..... 劉永娜 (514)

接続助詞トの用法	伊藤沙智子 (531)
結果相の「～てある」について	趙海城 (544)
中日両語の結果を表す複合動詞についての対照分析	張琳娜 (557)

日本文学・文化研究

住民主体によるコミュニティの生活安全保障システムの構築	石田路子 (572)
文化の違いから見る中日両国民の金銭観	李鋒伝 (588)
『倭名類聚抄』所引書目の一考察	林忠鵬 (604)
19 世紀末期中日两国对德国法律制度的摄取	肖传国 (616)
魯迅と科学小説の翻訳	范 苓 (626)
文化の違いから見る中日両国国民の数字観	劉志榮 吳 丹 (640)
一首和歌的解读	闫 茁 (651)
川端康成の文学の魅力	盧鳳俊 (660)
『舞姫』と『ノルウェイの森』を題材とした時代の一考察	植田義之 (671)
中国農村地域における子どもの価値に関する一考察	李東輝 (683)
中日企业文化比较	连业良 (696)
「鬼」に関する慣用表現の意味とその分類	趙聖花 齊曉寧 (705)
菅原道真「喜雨」詩における中国古代文学の受容について	張士杰 (716)

『雨月物語』における幽霊像をめぐって	姜 華 (736)
『葉隠』における「死ぬこと」の真意	張秀瑩 (749)
浅析日本鎌仓新佛教的产生及其影响	付红红 (762)

特 別 講 演

グローバル化進展とこれからの 日本語教育

水谷修 2006/9/17

水谷でございます、どうも。

実はこのグローバル化の進展とこれからの日本語教育、という題は事務局のほうから押し付けられまして…（笑、数秒沈黙）今言ったこと忘れちゃったんじゃないですかね（笑）。でも、大きな問題で切り口をどうするかというのは本当に実は難しい、それでも私たち、多くの方は日本語を教えるような仕事に関係していらっしゃる、或いは勉強していらっしゃると思うんですね。できるだけ具体的な形でこの大きな変化をどう見ていくか、どう切り取っていくか、自分はその中でどういう焦点を合わせた部分に仕事を定めていくかということは求められていると思うんですね。そういう生き方で今日の話は広くはできないけれども、焦点を絞って何かお考えいただく手がかりを提供できたらと思っております。プリントはこれはないんですね…はい。グローバル化ということはよく言われる事実、実際、日本の中でもそれは様々な分野で目につくようになって来ています。恐らく、中国でもそれはあるはずですね。社会的な傾向なわけです。それが、もしかすると、世界中で起こっているから、だから、同じように進むだろうと考えることがあるかもしれ

ませんが、これは間違っている、国によって或いは地域によってグローバル化の形は違っているはずです。そこを心得ていないと、私たちは対応の仕方では非能率的な方法を取ってしまう可能性があります。日本と中国の間で起こっているグローバル化、日本とアメリカの間で起こっているグローバル化、決して同じではないはずです。まあ、その変化というのは物の交流の中で現れていたりですね、本当に驚くほど中国製の品物が日本のスーパーをはじめ、いろんなところに出てきています。ご存知だろうと思うんですが、着る物はもちろんです、食べるものも、最近では魚も貝類もしじみもアサリもハマグリも、中国製がでもあっております。野菜もそうです。椎茸はこの間問題になりましたけれど、ネギとかですね、ただ不思議なのは日本へ入って来るものはこちらで頂く野菜よりあまり美味くない、あれはなぜだろう。どうも、日本の消費者は形の良い物を求めるので、それだけで美味しさよりは格好いいものを出している企業があるんですが、残念ながらこちらで頂く野菜と比べると味は落ちますね。そんな余計話しちゃうとすぐ時間が経っちゃう、ごめんなさい。そういった物の交流もあります、人の交流もちろんあるわけですね、人の交流で日本の大学へ留学する人それも結構増えている、それから日本で定住して仕事するという人も増えてきています。そう言った中で最近、そうかと思ったことは二つ事がありまして、一つは、皆さんはご存知かな、ちょっとショックだったのは、日本人の、日本の国の中での国際結婚の数がご存知かな、ご存知ですか、じゃまあいいか、全ての結婚の中で全国平均で10%が国際結婚になったそうです。東京の場合は20%だそうです。以前は、国際結婚する人は変な

人だと言われたりして、随分辛い思いもしただろうと思うんですが、もう一割二割になれば極普通の状態でしょう。こう言った形で人の交流が進んでいく、それは千何百年前にはあったけれど、ずっと長い間なかった、その千数百年の間に日本人が島国としてまとまった村主義の文化を、社会習慣を作り上げてきていることが実は日本語の伝承の、特に目的主義の日本語の学習には大きく関わるんだと思うんですね。人の移動ということで、この間、これもそうかと思ったんですが、それもお存知だと思いますが、日本へ来て仕事をする、で、その子供たちの教育は問題になってきています。これ、圧倒的に多数がブラジルからの日系人ってということなんですが、この中でも大きな変化が起こり始めています。

私の仕事場の名古屋の場合、愛知県ではブラジルから南米からきた人が多いんです。ところが名古屋市の場合は中国人の子供が一番多いんです。そういう風に変化が起こり始めてきています。日本へ行く、そういう外国の人たちの割合、その人たちが日本社会でどんな生き方をしていくかというのは、これからの20年、30年の日本を大きく変えていくだろうと、今のところでは、まだまだ結構苦労していると思うんですが、でもその目は既にでて来ています。二月ほど前、築地という、東京の魚の大市場がありますね、あそこへ行って、あそこの市場の場内と場外があります。普通の人には行っているのは場外ですが、場内は魚屋さんたちが入っているところです。そこにも色んな食べ物屋さんがあるんです。お寿司屋さんとか、天ぷら屋、天井屋さんとかそういうのがあるんですが、その寿司屋に入ってみて、カウンタへ座って注文したら握ってくれたのはフィリピン人です。寿司

屋といっても色々あります、町の中の寿司屋なら、理解します。築地のその本場ですね、習慣の非常に伝統的に厳しい場内の鮎屋で、寿司を握る仕事ができるそういう外国人ができています。四年ほど前ボストンで日本語の国際会議があった時にボストンのホテルでお寿司を食べました。その時握ってくれたのは三人いたんですが、三人ともベトナム人です。で、日本のどこで修業したのって聞いたら、日本へ行ったことありません。だから、そういう形ででも寿司の職人になることが可能な場面もあるし、日本という本場の中で、しかも本当にその職人が戦い合っているボストンの中の鮎屋で一丁前の仕事をしている外国人もいる、その周りを日本人のあまり仕事のできそうもないのがお茶を運んでいる、そういう状況がある、気をつけて町の中を見ていると、お医者さんの名前に中国名の名前がすごく多くなってきていると感じるんです。日本で開業するためには、医学の大学を卒業して試験も受けて行かなければなりませんから、恐らく相当頑張ったんだろうと思うんですが、こういう人たちが増えてきているので、こういう風に人の交流でも変化が起こっているけれども、ほんとうはこうやって頑張った人たちにインタビューをしてみたい、どうやって乗り越えたか、そしてそれを教わったら日本語教育の世界でも目標を設定し、目的主義の教育をするのにはこういうヒントがありますよと言ったらいいなあ、僕がなかなかできませんので、皆さんの中でチャンスがおありの方は是非、実践的な経験の中でその接し方に日本語を良くうまく使う、効率的に使える方法は何なんだ、っていうことを調べてくださると今大学と学校で教えている教育にも必ず役に立つはずだと思うんですね。とにかく、そのグ

ローバル化というのが、具体的なレベルで起こってきていますが、大連の場合も、ここへ進出してきている日本の企業の方たち、頑張っている、その中でもやっぱりこの段階で考えなければいけないだろうと僕思っていること、一つあるんですが、それはどうしても目的主義となりますと、例えばお金を儲ける、生産活動をする、そのことを効率的にするということが、部分的になりますと、一番大切な人間関係をどうしていくかっていうことが忘れられる可能性があると思うんです。

日本の社会は、先言いましたように、千数百年前は、恐らく国際的な国であったのに、非常に長い間努力をして単一国家的、単一文化的な形を作ってきた、そのために私たち、特に明治以後に、強く一国家主義的なシステム作りが済んだ為に、私たちの頭の中には強い枠を作って考える、枠的な発想のようなものが多くなっていると思うんですね。だから、例えば海外へ来て、大連でお仕事している方々の場合は、具体的な接触の場がありますから、具体的な解決しなきゃならない問題にぶつかるわけですが、日本の中にいますと、抽象的になって、何か中国との関係のお話合いになると、日本は、中国は、先週ある大臣がテレビで言っていたんですが、ちょっと僕が腹を立てたことがあって、いや違うぞと思ったことがあるんですが、それは中国との関係でよい交流関係、友好関係を結ばなければならない、これは誰も必要としています、その人も友好関係を結ばなきゃならない、その後は気に入らなかったのは但し友好というのは手段であり、目的は経済活動だとおっしゃった、違うじゃないのと僕が怒ったんですね。経済活動で確実に儲かるようにする

成果を挙げるという事は大事な指標になるはずですが、でもそんなことが目標で、友好は手段だという発想はグローバル化の、人類社会の新しい目標作りに対しては、決してプラスではない、と僕は信じています。友好関係の樹立こそ、本当の目的であって、それを成立させるために、経済活動をして、設けて、お互いに何かの形で役に立つというやり方を見つけ出すと、いう仕方をしないと、長続きはしないだろう、日本のデパートで成功したデパートはすべてがお客さんを大事にし、従業員を大事にするっていうやり方でできているわけですね。最近トヨタの活動を見ても思うんですけれど、物凄く厳しい要求を下請けの会社にしますね、大変です。だけれども、絶対に下請けは潰さない、潰したっていう、聞いたことはありません。それから、トヨタ会社の中で、組合もちろんありますけれど、クラブ活動、いろんな活動を支援する体制はもの凄く強いものがありますね。人間は大切にす、効率主義の弱肉強食でとにかく役に立たんやつはキズをつけるような発想だけは、だけでは本当の成果を挙げることでないだろうと思うんです。ですから、グローバル化の変化の実体をよく見ると同時に、どういう方向にグローバル化の変化を私たちは意識しなければならないと、という方向に受けて進んでいくべきかということを考えないと頑張っても努力をしても成果が得られないっていうことはあるだろうと思うんです。

ちょっと大きいお話をしてしまいましたが、そのグローバル化を理想に受けて進めていくためには、まあ、理想でなくてもいいかもしれませんが、言葉が果たした役割は大変大きなものがあります。大昔、と言っても30年ぐらい前ですか